

大町山岳博物館

撮影 高橋秀男

歩行する雄ライチョウ



1963年5月25日

第8巻第5号

# 山と博物館

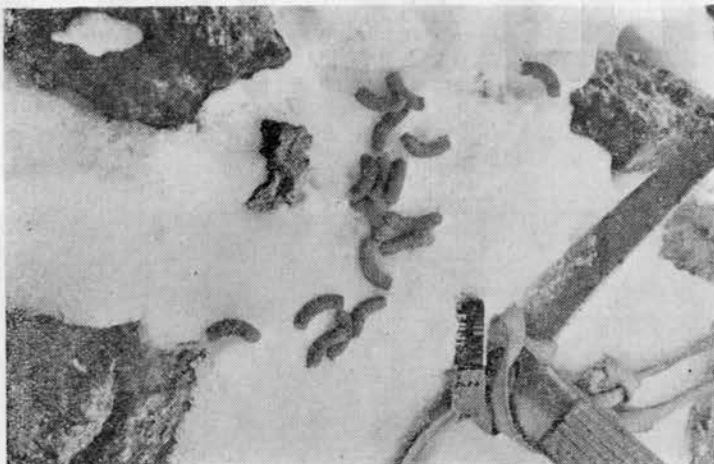
毎月1回25日発行

第3種郵便物認可(昭和35年7月26日) ①

# 爺ガ岳雷鳥調査行 (2)

高橋秀男

一カ月の机上プランから実際に準備を開始したのは2月10日であった。食糧、装備、調査器材、通信、庶務、医療など数少ない学芸員は雷鳥調査の準備に全精力を傾注し、ようやく3月6日には下見トレーニングに出発できるまでになった。ここで参考までに調査経過の概要を報告し、41日間の冬山生活を振り返ってみたい。



○調査期間 昭和38年3月12日～4月21日、41日間(実際の下山予定日は4月20日であったが悪天候のため、一日下山日が延びた)

○調査地域 北アルプス爺ガ岳(2669.8m) 一帯、行動域は北峯、中峯、南峯から種池小屋にかけて、主に黒部側斜面。

○調査基地 種池小屋(2460m)

○調査隊員 平林国男、高橋秀男、千葉彬司、(以上大町山岳博物館) ○福園 功、○和田全弘、△山下俊夫 △佐藤 勝(以上自衛隊松本部隊)

○印は3月12日—30日 △印は3月28日—4月21日

○支援隊

3月12日—14日 菅沢六海(大町山の会) 下川未吉、平林七郎、平塚豊治、大谷 武、内川昭一、丸山 清(以上白馬村案内人組合)

3月28日—31日 荒木宏治、菅沢六海、伊藤 弘、△松沢宗洋、△西沢庄二、△小林 弘(以上大町山の会 △印は日帰り支援)

4月20日—21日 柳沢幸治、福島 融、荒木宏治、武田睦男、山口一也、唐沢清光(以上大町山の会) 海川庄一(山博) 柴田一美、北原千秋、鷺沢 (以上大町案内人組合)

## 団体装備表

品名	品質・規格	数量
携帯無線機	0.1W トランシーバー	1組
携帯無線機	0.3 W自衛隊用アンテナとも	2
冬用天幕	5~6人用	1
〃	7~8人用	1
エアーマット	全身用	5
エアーマットのはぎれ		若干
エアーマット修理用糊	小	3

## ライチョウのフン

グランドシート	5~6人用	1
フライシート	〃	1
石油コンロ	ラジウス	3
〃	プリムス	1
〃	スベア	1
石油ストーブ		1
ツェルトザツク	ビニロン 3人用	1
〃	2人用	2
背負子		1
スコップ		2
ナイロン ザイル	11mm×40m	1
サブ ザイル	6mm×30m	1
コツフェル セット	特大	2
なた		1
のこぎり		1
ランタン		2
目覚時計		1
金づち	小	1
携帯ラジオ	9石2バンド	1
テントブーツ		1
ゾウリ		3
バケツ	小	1
洗面器	小	1
ホーキ	小	1
指標竹		70
標識布		70
オイルタンク		8
乾電池	自衛隊 無線機用	7

携帯バケツ	10ℓ入布製	1	肌あれクリーム		1
石油ポンプ		3	日焼止クリーム		3
なべ	24cm	1	リップクリーム		3
やかん	1.8ℓ	1	将ギ		1
じょうご		3	花札		1
靴紐	スベア	3	トランプ		1
アイゼンバンド	スベア	1	地図 50000分の1	大町	5
細引	20m	1	クク	黒部	5
食器		15	カレンダー		1
フライパン		1	雑誌類		5冊
飯しゃもじ		3	ペンチ		1
お玉じゃくし		2	木ばさみ		1
ボール		2	マジックインク		6
龍の子たわし		2	磁石		2
箸		20	ホイッスル		3
カスガイ		10	雑布		5
ガス焼		1	針		若干
カン切		3	糸		ク
包丁		2	バケツ	大	1
まな板	厚手ベニヤ	2	農業用ビニール		50m
おろし金		1			
馬ブラシ		2			
ドライバー		1			
木ねじ		20			
釘		若干			
針金		ク			
雪崩紐		50m			
豆電球		10			
乾電池	単一1.5V	100			
携帯ラジオ電池	UM-2,1.5V	40			
テープコーダー電池	9V	20			
トランシーバー電池	UM-3,1.5V	160			
ふきん		2			
クレンザー		2			
石ケン		3			
新聞紙		2kg			
マッチ	徳用	3			
ローソク	100匁ローソク	50			
ワセリン		500g			
トイレットペーパー		10			
保革油		3			
歯みがき粉	チューブ入	2			
つめ切り		1			
かがみ		1			
くし		1			
かみそり		1			
ひげそり用はけ		1			
ライター用オイル		5			

## 個人装備表

品名	品質・規格	数量
ピッケル		1
ピッケルバンド		1
アイゼン 8本爪	ヒツカケ式、 門田	1
スリーピングバック	羽毛入り	1
ギルテングコート 上下		1
かぶり型アノラック	ナイロン ツイール二重	1
オーバーズボン	ナイロン ツイール	1
オーバーシューズ	ビニロン ギルテング	2
ニツカズボン		1
スキーズボン		1
ストッキング	野球型	1
登山靴		1
わかんじき		1
ソックス	純毛	8
手袋	純毛	4
オーバーミット		2
エアネットシャツ		1
純毛メリヤス上下		1
純毛肌着 上下		1
カッターシャツ		2
セーター		1
ゴータル		1

サングラス		1
目 出 帽		1
テ ル モ ス	0.7l ~1l入	1
カ イ ロ		1
キャップライト		1
スキーストック		1
キスリングザック		1
サブザック		1
パ ン ツ		3
手 拭		3
タ オ ル		3
ラ イ タ ー		1
時 計		1
スプーンセット		1
尻 皮		1
胴 巻		1
ナイロン軍手		2
上衣(ジャンパーなど)		1
雨 ガ ッ パ		1
マ フ ラ ー		1
わかんの紐		1
アイゼンバンド		1
アイゼンケース		1
オーバーズボン	ビニロン	1
ウインドヤッケ	ビニロン	1
日 記		1
筆 記 用 具		1
洗 面 用 具		1

調 査 用 具

品 名	品質・規格	数量
スケール		3
積 雪 計		1
巻 尺	20m	1
水銀温度計		5
アルコール温度計		5
最高温度計		1
最低温度計		1
アースマン乾湿計		1
風向風速計		1
照 度 計		1
降雪計(新雪積計)		1
高 度 計		1
数 取 器		3
35%カメラ	アサヒペンタ	1
ク	ニコン	1
135%望遠レンズ	アサヒフレックス	1

500%望遠レンズ	三脚付	1
1000%望遠レンズ	アサヒ	1
	ペンタックス	
16%撮影機	ベルアンド	1
	ハウエル	
8%撮影機	キャノン	1
プロニーカメラ	マミヤプレス	1
モノクロ用フィルター	Y2・R	1
カラー用フィルター	一 組	1
16%シネ用フィルター		3
露 出 計		1
三 脚		1
シンクロフラッシュ		1
双 眼 鏡		3
テーブコーダー	携帯用	1
カ ス ミ 網		4

調 査 用 消 耗 品

品 名	品質・規格	数量
航 空 写 真		1
爺ガ岳詳図	青写真	5
天気図用紙		50
色 鉛 筆	12色	1
鉛 筆	ダース	2
消 ゴ ム		10
イ ン キ		3
ス ポ イ ト		2
野 帳		30
三 角 定 規	組	1
直 線 定 規		2
コ ン パ ス		2
分 度 器		1
模 造 紙		20
更 紙		100
足 環	10色ビニール製	50
方 眼 紙		1
糊		2
紙 テ ー プ		10
セロテープ		5
画 鋏	箱	35
封 筒	束	1
ビニール袋	束	10
録音テープ	RY35	5
輪 ゴ ム	箱	1
紙 ヒ モ	束	1
エチルアルコール	500cc	1
フ イ ル ム	プロニー	30
フ イ ル ム	35%36EX	50

フィルム	カラープロニー	10
フィルム	カラー35%	20
フィルム 16%	シネ用	20
フィルム 8%	シネ用	20

## 医薬品・衛生材料・衛生器具

適 応 症	薬 品 名	数 量
鎮静睡眠剤	新グレナイト	8錠
解熱鎮痛剤	シンピリン カプセル	12cap
ク	アスピリン	20錠
鎮 咳 剤	強力ベルベ暖止	20錠
ク	ホノバン鎮咳 抗喘息剤	30錠
健 胃 剤	アネツクス	20錠
下 痢 止 め	テスミン カピセル	8 cap
強 肝 薬	グロンサン酸 BC錠	100
抗 生 物 質	クロロマイ セチン	100錠
サルファ剤	サルファダイ ヤジン	20錠
ビタミン剤	総合ビタミン剤 グロンサンC 発泡錠	300錠 30錠
感 冒 剤	ベンザ	20錠
凍 傷 剤	ユベラ錠	30錠
止 血 剤	カチーフ錠	100錠
眼 科 用 剤	新ロート目薬	13ml
痔疾治療剤	パイタム	20g
肩こり・腰痛	ヒナルゴン	8 cc
ク	サロンパス	20枚
外 用 薬	ユベラ軟膏	10g
	エゼルミン軟膏	12g
	オロナイン軟膏	10g
	ベニシリン軟膏	5g
	グリセリン	90c
	稀ヨードチンキ	25ml
衛 生 材 料	ガーゼ	
	綿 花	50g
	三角布	3枚
	包 帯	3
	伴そうこう	1
	油 紙	3
衛 生 器 具	体温計	2
	はさみ	1
	ピンセット	1
	注射器セット	1
注 射 液	ビタカンファ	9本
	指頭消毒器	1

## 装備

単に頂上を目的とする登山と異なり、一日中雪上で立ちんぼでライチョウを観察しなければならないので防寒防風を最も重視した。まず登山靴は防水を考え、スキー靴用の最高の皮を用い、松本の竹内で新調した。それでも4月も半ばを過ぎ、雪が腐ってくると、靴の中はじゅくじゅくとぬれて、仕末が悪かったウインドヤッケはナイロン製でダブルに特製、オーバーズボも同様にしたかったが予算の都合で出来なかった。早朝、夕刻、風の強いときの出勤にはキルティングコートを用意したが、深雪の歩行に困難を極めたため、殆んど使用しなかった。ウインドヤッケにオーバーズボの上へ自衛隊用の白いアノラック(裏にうさぎの皮がついている)を着た方が、行動し易く、暖く、また白いのでライチョウからの保護色の役目もなして欠くことができなかった。オーバーシューズは羽毛入りキルティングを用いた。一着を40日間はずきりでは底のアイゼンが融れる部分が駄目になる。

アイゼンは内田の特殊鋼、ひっかけ式を使用した。比較的軽く着脱容易な点随分能率が上がった。ときには岩場を歩くこともあって、下山する頃には先が丸くなってしまった。

雪にうもれた山小屋は冷蔵庫と同じである。居住性をよくするために、暖房用の石油ストーブを据えることにした。性能の優秀なものということで、ブルーフレンをあらかじめ探し歩いたが、時期が悪くあり合わせのパインストーブを購入した。これは運搬が容易、操作が簡単、火力が強い等の利点も多かったが、石油の消費量は多かった。幸いにも無事故で本調査の生命となった。昼夜の別なく点火されており、暖房と濡れ物を乾かすのに、雪を融かし水をつくるのに、また湯水から炊事に最大限に派用した。石油は360ℓ準備したが、実際に石油コンロと石油ストーブに用いたのは288ℓである。熱効率を高めるために部屋内は全壁面農業用のビニールで張りくるんだ。

疲労回復はまず熟睡からと寝具にも充分気をつかった。羽毛シュラフに化繊のシュラフを二重に使い、下にエアーマット、毛布は各自2枚ずつ割当た。ストーブがあったためか、かえってあつくて寝られない夜もあった。

## 食糧

米を主食とし、行動食には特製のパンを用いた。このパンは松川村の武田パン店に依頼して、栄養師、防腐などを考え合わせたもので隊員一日1回パン食、の割合で特別注文、260コ持ち上げた。特製パンは長期山行に使用しているが、堅くなるようなことなく、行動食としては条件を揃えており、半年後でも食べられるがやはり水分を必要とするパン類は喉を通らず、だいぶ残った。当初荷上げは人間の肩でやる計画で、装備食糧の軽量化

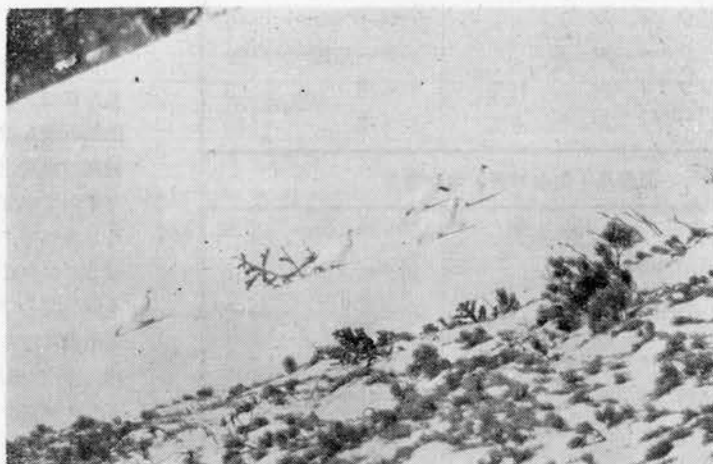
を計ったため食糧計画も乾物に重点がおかれた、しかし、発注後にヘリコプターによる荷上げが決まったので結果的にみると生野菜、果物、生肉等重量の増えるものも若干持ち上げてよかったと思う野菜類は主に乾燥野菜、果物は缶詰類、動物蛋白は缶詰、乾肉、ハム、ソーセージなど用いたが、これはあまり食欲をそゝらず、調理に趣向をこらすより仕方がなかった。

調査器材

16mm撮影機、8mm撮影機、35mmカメラ2台、6×9版1台上げた。主調査員3名で観察したり、撮影したりでは少し負担が多すぎたようだ。観察用具は双眼鏡が主体であったが悪天候の場合、調査不可能な場所にいるライチョウの観察にと1000mmの望遠レンズ(望遠鏡にもなる)を用意した。当初の予想以上に調査が比較的容易であったため、殆んど使用する時間がとれず、結果的には重量オーバーとなってしまう。

連絡

本部博物館と調査基地種池小屋との連絡は自衛隊の協力により、0.3Wの無線機を借用することができた。基地と調査現場とはトランシーバー(ビクター)で行った調査をスムーズに進行させる上に、また各種の連絡に無線機はあらゆる面で百パーセントの効果を上げることができた。0.3W無線機によって、種池小屋→博物館、種池小屋→松本部隊、博物館→松本部隊の三者で交信できた。トランシーバーの活躍も目ざましく、爺ガ岳南尾根→博物館、爺ガ岳北峯～南峰の国境稜線→博物館、種池小屋→大町郵便局屋上、種池小屋→貝羽社宅等と非常に



斜面を登る群

感度良好に交信することができた。むしろ連絡があまり良好過ぎて、ついうっかり交信時間を忘れて出なかったりすると、かえって本部に心配をかけるような結果になってしまったことは皮肉であった。

健康管理

予算難から医者との同行が得られないので、各自が健康管理に意を注ぐより仕方がない。そこで、山の経験も深くドクターであられる古原保健所長を尋ね、ご指導を仰ぐとともに健康診断もうけた。あらゆる起り得る病気を想定し薬品を用意し、治療法を学んだが、最も危険性の高い肺炎等を考慮し、抗生物質(クロロマイセチン)150錠を準備した。幸いに病気らしい病気もなく、強いていえば雪盲、軽い下痢、不眠症程度であった。

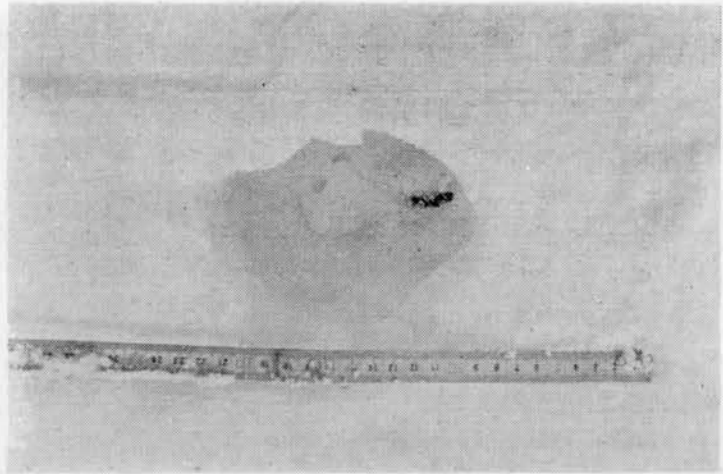
- 普通旅費 21,200 (連絡、準備など)
- 調査旅費 106,800 (隊員装備、食糧、山小屋賃など)
- 支援人夫賃 90,000 (荷上げ、中間支援、荷下げ)



雪の間にこの様な食物が

保健医療費	15,000	
装備消耗費	244,000	(団体装備ほか)
調査用消耗品	48,000	(フィルムほか)
燃料費	16,996	(灯油ほか)
食糧費	46,000	(会議及び通信隊食糧)
印刷製本費	35,154	(写真現像、焼付、引伸)
電話郵便料	4,957	
器材借上料	162,000	(ヘリコプター借上げ)
調査器具修理代	10,000	

災害保健料	875	
計	800,000	(長野県社会教育委託費)
備品費	110,000	(博物館費)
調査旅費	40,000	( / )
総計	950,000	



(写真上)

ネヤの跡雪穴の中にフン50数個  
羽毛などがあつた。



(写真下)

3月30日 自衛隊  
の2名は交替して  
支援隊とともに下  
山して行った。

### 暖風館長独言

今年黒四ダムも完成し、観光客がどつと大町地方を訪れることになりそうだ。受入態勢の方も徐々に進めているが、これについて最近博物館に対する市民の理解が目立つようになった。観光望遠鏡、観光常夜灯、投光器水呑み場、公衆便所、休憩ベンチ、岩石の払下げ、探鳥会バス貸与など寄附してくれたり貸与ねがったりで協力してくれる。公園を美しくする会や、神楽町の子ども会など直接出掛けて来て、博物館の周辺を美しくしてくれる、全く有難いことだ。だがこれでよいのだろうか。

市民の理解や協力は有難いことに違いない。しかしそういう市民の好意にばかり甘えないで博物館員としても施策がなくてはならない。六月四日に協議会を開いてこれからの方針を定めていただくのだが、こんごとも市民の期待に応えるよう頑張ろうと話している今日この頃である。

#### 昭和38年度市立大町山岳博物館協議会委員

丸山正巳 下一 常盤小学校長、平林武夫 北原町 第二中学校長、松尾はる代 高見町 市連婦、小林 博 高根町 市連青、武田 武 松川村 山岳会、高橋銚吾 南原町 山の会、田中保平 俵町 友の会、薄井脩助 九日町 市議会議員、広川光栄 上一 市議会議員、伊藤貞雄 館の内 市議会議員、広瀬英吉 五日町 市議会議員、高橋勇次 五日町 市議会議員、荒山幸久 海の口 市議会議員、古原和美 東若宮町 大町保健所長、首藤 豊 大黒町 大町営林署長、山本携拳 八日町 大町商工青年研究会、奥原一登 神楽町 前協議会委員、阿部西与 中原町 前協議会委員 記者クラブ、峯村 嵩 東町 大町市公民館長 (順不同敬称略)

## 博物館だより

## ライチョウ調査隊解団式

5月21日 種々の事状により延び延びになっていたライチョウ調査隊の解団式は支援隊をはじめ自衛隊松本部隊、その他の人々多数が参加して行なわれ、そのあと、8ミリ、スライドによって簡単な報告が行なわれた。

## 小鳥の声を聞く会

6月2日 青葉若葉の中に鳴く小鳥の声を聞こうと博物館では参加者を募集している。

コースは大町駅前を午前4時貸切バスで出発、居里谷湿原で下車、小鳥を観察しながら博物館付属水鳥園のコブハクチョウを見て午前10時大町駅にて解散する事になっている。

## 只今抱卵中

4月21日までに4卵を産んだコブハクチョウは現在も抱卵中、抱卵期間は35~38日といわれているので、飼育係は可愛いヒナがかえるのを首を長くして世話に終日余念がない。(写真上)

## イワツバメ

## 長沢修介

近年都市の建築様式が変り高層建築や耐火建築が目立ってきた。そのため今迄巣作っていた燕はその営巣場所を追われる結果となった。この燕に変わって都市の近代建築に住みついたものがイワツバメである。イワツバメはツバメ科の鳥で元来もっと標高の高い高山に棲む鳥である。当大町市内にも5年位前までは大町駅にわずかにイワツバメの巣が見られるのみで他は全部普通の燕であった。しかしこの2~3年の間に都市計画とやらで古い家は取り払われ近代建築の家がそくそく出来た。それに伴って燕の数が年々減少し変わってイワツバメがあちこちに営巣を始めた。代表的なものを上げると長野県商工信用組合大町支店、松葉屋旅館、大町郵便局等がそれである。又一方普通の燕はイワツバメが住みつき始めると次第にその数を減じて行くようである。

この様に人家にイワツバメが住みついている所は松本駅、浅間温泉、長野駅、善光寺、小谷温泉、新潟県燕温泉、妙高赤倉温泉等いずれも標高の高い所か非常に大き



## 資料寄贈

四つばし 大阪市立電気科学館、自然科学と博物館 No28の9-10 国立科学博物館、植物趣味 No22ノ4 東亜植物学会、国立公園No145 国立公園協会、山と溪谷No275 山と溪谷社、金沢文庫研究、金沢文庫、葛城No138 泉州山岳会、溪流 気象庁山岳部、会報No12 登歩溪流会、おいらく山岳会月報No25 おいらく山岳会 東斐月報38,39,40 東斐山岳会、からまつ38 落葉松山岳会、山辺18,19,20 横須賀登高会、峠No9 広島山稜会、奥多摩No32 奥多摩山岳会、わらじNo52,53 わらじの仲間、京都山岳No62-1 京都山岳会 (敬称略)

い建物に多い。多数が群って営巣し繁殖期でも群って行動していることが多くかって私の観察した鹿島槍三ノ沢でのものは一つの岩壁に50個余りのものが集団営巣していた。近代建築のためイワツバメが巣作りを始めると外観が悪いとか周囲が汚れるとかの理由で巣を落す不心得者を見かけるが当大町の様な山岳都市に高山に棲息するこの鳥の住むことは大いに誇りに思うべきではないだろうか。養育を受け作る位の心を持って大いに保護したいものである。



お願い 本紙の購読ご希望の方は1カ年購読料300円(郵送料とも)を現金書留または郵便為替、郵便切手で長野県大町市、大町山岳博物館あてご送金下さい。 大町山岳博物館

山と博物館 第8巻第5号 1963年5月25日発行  
発行所 長野県大町市TEL(大町)211  
大町山岳博物館  
印刷所 大町市上仲町  
信州印刷大町工場